

2021 年度 小委員会活動成果報告

(2022 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	環境建築設計法小委員会		主 査 名：永田 明寛 就任年月：2019 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (建築設備運営委員会)		委員長名：秋元 孝之 主 査 名：近本 智行
設 置 期 間	2019 年 4 月 ～ 2023 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>地球環境・都市環境・人との調和を目指す「環境建築」実現のための技術は、進化を続けている。建築・設備を一体的に機能させる技術、ZEB 達成のための技術、活力を生み出す室内環境の創造技術、災害に対する強さを備える技術へと広がり、環境建築の設計は高度化している。本小委員会では、</p> <p>(1)環境建築の設計技術や性能予測・評価技術を収集・整理する。 (2)収集・整理した技術を、設計あるいは更なる技術の発展、技術者教育に利用できるよう、出版物等の形にして公開する。初年度～3年度： 初年度：①委員会活動の具体的な方針策定、②環境建築の設計事例と技術開発・研究事例の収集と分析、③設計事例の現地調査と分析 2年度：①環境建築の設計事例と技術開発・研究事例の収集と分析、②設計事例の現地調査と分析 3年度：①環境建築の設計事例と技術開発・研究事例の収集と分析、②設計事例の現地調査と分析、③環境建築の設計技術・評価技術の分類・整理、④成果の公開形式・内容構成の検討、シンポジウムの開催 4年度：①環境建築の設計技術・評価技術の分類・整理、②公開する成果の具体的な内容構成の検討</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：永田明寛（東京都立大）、幹事：中山哲士（岡山理科大）、委員：赤司泰義（東京大）、石野久彌（東京都立大）、宇田川光弘（工学院大）、大木泰祐（大成建設）、菊田弘輝（北海道大）、小池正浩（竹中工務店）、郡公子（宇都宮大）、木幡悠士（NTT ファシリティーズ）、長井達夫（東京理科大）、羽山広文（北海道大）、丸山純（松田平田設計）、村松 宏（日建設計）、木下雅広（日本設計）</p>		
設置 WG (WG 名：目的)	なし		
2021 年度予算	円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	
委員会活動の問題点・課題	

2021 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価 最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>2021 年度は全 6 回の委員会を実施し（第 6 回は 2022 年 3 月 18 日開催予定）、以下の項目を中心に話題提供があり、それに関する意見交換を行った。また、成果公表のための書籍出版についての議論に時間を大きく割いており、徐々に具体的な内容が詰まってきたところである。</p> <p>また、AIJ 大会では OS を企画し活発な議論がなされた。なお、小委員会の活動として 1 月に見学会の企画をしたが、年明けの急激なオミクロン株の蔓延により見送られ、小委員会は全てオンラインでの実施となった。</p> <p>【主な話題提供】</p> <p>① 環境建築の設計事例と技術開発・研究事例の収集と分析、寒冷地の ZEB 実現ダイダシ北海道支店の調査について 新国立競技場の環境配慮技術と設計事例の紹介 積雪寒冷地における無暖房化を目指した超高性能パッシブ換気住宅の実態調査</p> <p>② 設計事例の現地調査と分析 (新型コロナウイルス感染拡大の影響により実施できず)</p> <p>③ 環境建築の設計技術・評価技術の分類・整理、冷房時の換気量制御による省エネルギーの検討 国内代表都市の 2020 年版冷房設計気象の検討 空調システムシミュレーション開発と省エネ効果推定</p> <p>④ 成果の公開形式・内容構成の検討、シンポジウムの開催 出版企画として「見る・使う・学ぶ 環境建築シリーズ」の第 4 弾出版に向けて議論を進めている。</p> <p>中間年度の計画を十分に達成しているものと判断した。</p>			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。